

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	機能訓練1	
科目基礎情報							
開設学科	柔道整復科		コース名		開設期	前期	
対象年次	3年次		科目区分	必修		時間数	30時間
単位数	2単位		授業形態	講義			
教科書/教材	教科書は「リハビリテーション医学」を持参する。その項目ごとに資料を配布する。						
担当教員情報							
担当教員	塚本 哲也			実務経験の有無・職種	有・柔道整復師		
学習目的							
リハビリテーション領域は患者の持つあらゆる障害に対し総合的に対処していくものであるから、医師だけでなく多くの医療専門職と力を合わせて行っていかなければならない。これに関与する医療専門職はリハビリテーション領域への理解を深め、その知識と技術を習得していくことが重要である。柔道整復師は介護保険法に基づき老人介護施設において機能訓練指導員としての活動が許されている。この科目は、介護を要する高齢者の心身機能の回復に従事する者にとっては必須の知識であり、これにより高齢者の身体機能を理解し国民の健康保持に寄与することのできる人材を育成することが学びの目的としている。							
到達目標							
機能訓練指導員とは、日常生活を営むのに必要な機能の減退を防止するための訓練を行う能力を有する者であり、通所介護事業などで利用者への機能訓練を行うことで、能力の維持向上をはかることが活動の主体となる。要介護状態となる原因にて多い「転倒・骨折」と柔道整復師との関連は強く、また、各種の関節の痛みに対しても習熟しているため介護保険における重要性が高まっている。この科目では、高齢者の身体特性と慢性疾患・既往症・合併症ならびに機能訓練に必要なリハビリテーション知識と装具などの実際について理解することで高齢者福祉に貢献する人材を育成することを目標にしている。							
教育方法等							
授業概要	教科書を中心に実際の装具を用いた使用方法などの説明も含めて、学生が想像しやすい、より現場に近い内容で進めるものである。理学療法・作業療法・言語治療ならびに高齢者福祉についても理解を深める。多くの高齢者が要介護状態となることを予防して健康保持増進に努めることができるための学びに重点を置く。						
注意点	国民の健康に寄与する医療人の育成であることを重視する。全授業の出席を原則とする。正当な理由なき欠席・遅刻・早退は認めない。また、授業中の態度（私語・飲食・居眠り）には厳しく対応する。常に医療現場にて患者に適切な応対ができるマナーを身につけるような心掛けを求める。なお、授業時数の4分の1以上欠席した者は定期試験を受験することができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	100%	試験と課題を総合的に評価する				
	小テスト	0%					
	レポート	0%					
	成果発表 （口頭・実技）	0%					
	平常点	0%					
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	リハビリテーションの概念と歴史			リハビリテーションの定義と概念について理解する			
2回	リハビリテーション医学			リハビリテーションの4つの分野について理解する			
3回	リハビリテーション医学の基礎医学①			運動学（姿勢と歩行）と機能解剖・障害学（関節拘縮・筋肉拘縮・神経麻痺など）について理解する			
4回	リハビリテーション医学の基礎医学②			治療学（拘縮治療・筋力増強訓練）について理解する			
5回	評価と診断①			身体計測・関節可動域測定法・徒手筋力テストについて理解する			
6回	評価と診断②			中枢性運動障害の評価法（ブルンストローム法など）について理解する			
7回	評価と診断③			失認・失行・心理評価ならびに日常生活動作（ADL）の評価について理解する			
8回	前期7週までの振り返りと確認演習			1回～7回までの知識が蓄積されているか確認する			
9回	理学療法①			運動療法の種類と内容について理解する			
10回	理学療法②			物理療法の種類と目的について理解する			
11回	作業療法、補装具			作業療法の実際と補装具について理解する			
12回	義肢、移動補助具			義肢・移動補助具の構成と分類について理解する			
13回	言語療法、失語症			言語療法の適応症と失語症の原因・分類などについて理解する			
14回	前期13週までの振り返りと確認演習			9回～13回までの知識が蓄積されているか確認する			
15回	まとめ			半期で取得した知識の確認			